

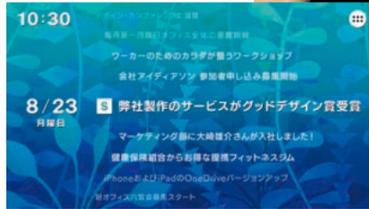
デザインとテクノロジーで“働き方を科学する” 三井デザインテックの「共創デザイン」とは

オフィスやホテル、住宅など幅広い分野のデザインで多数の実績を持つ三井デザインテックが2020年春、働く人のクリエイティビティー（創造力）を高めて組織や人の生産性向上を促す新サービスを発表した。デジタルテクノロジーを駆使した「O₂Wall（オズウォール）」と「Beacapp Here Pro」という2つの新サービスを通して、最先端のオフィスづくりを探った。

文／國貞文隆 写真／世良武史



「O₂Wall（オズウォール）」では、オンラインで社内共有しているコンテンツなどを自動で抽出し掲載。埋もれがちな情報を共有することで、ワーカー同士のコミュニケーションを活性化させる。



岡村英司さん
三井デザインテック
スペースデザイン事業本部
ワークスタイル戦略室室長

多様な働き方の実現を図ることで組織や人の生産性向上を目指す“働き方改革”。これを経営戦略の1つと捉え、労働環境の見直しが進み多様な働き方が広がる中、オフィス環境の改善に投資する企業が増えている。三井デザインテックでも、デザインとテクノロジーを使った“共創デザイン”をキーワードに、最先端のデジタルテクノロジーを駆使した新しいオフィスづくりに力を入れている。その一つが、働く人のクリエイティビティー（創造力）を高めるオフィス向けデジタルサイネージ「O₂Wall（オズウォール）」だ。「O₂Wall」は、オフィスにデジタルサイネージ（電子看板）を導入することで、社内外の様々な情報やナレッジを簡単に共有できるようにし、従業員のコミュニケーション促進を図るサービスの

こと。三井デザインテックとデジタルベンチャー・ラナデザインアソシエイツとが共同で開発し、今春からサービスをスタートさせる予定だ。「これまではデジタルサイネージを導入しても、掲載するコンテンツの制作で手いっぱいになったり、更新や管理に手間がかかったり、運用面に課題がありました。『O₂Wall』ではこの課題を解決すべく、社内掲示板やSNSにアップされる社内外の情報を、オフィスに最適な形にデザインした状態で自動的に掲出できるようにして（上画面）、管理者の負担軽減につながりました。『O₂Wall』を導入することで情報が自然と目に入りますから、ワーカー（従業員）同士の情報共有、様々な気づきが進み、コミュニケーションを促すきっかけになります」（三井デザイ

ンテック、スペースデザイン事業本部ワークスタイル戦略室室長の岡村英司さん）。「O₂Wall」の特徴はまだある。モニターを設置する高さ、ワーカーとの距離などを計算し、ユニバーサルな視点で視認性・可読性の高い画面デザインを制作。オフィス空間に合わせて選べる背景を用意し、表示コンテンツに興味を引く動きや演出を施すなど見る人に配慮したデザインを提供することで、ワーカーのリラックスとクリエイティビティー向上を促す。毎時表示される時報とともに一言メッセージを配信したり、偉人や識者の格言をポップアップさせたりと、様々なサービスも追加予定だ。コンテンツの運用も簡単で、ファイルをアップロードし、ドラッグして再生したい位置に移動し保存。設定

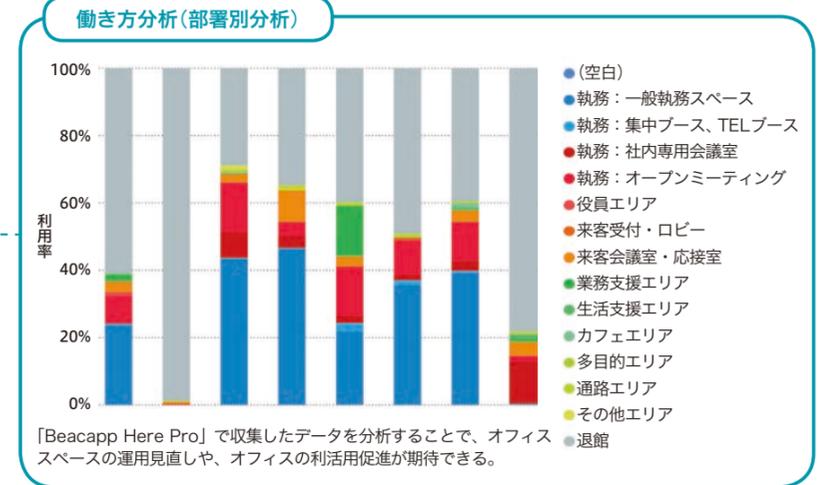
した順番で再生できるという。各所に設置されたサイネージを、1台単位でコントロールできる点も見逃せない。表示されるコンテンツは、目的に合わせてプレイリスト形式で1台ずつ管理することが可能で、情報の機密性もしっかりコントロールする。

「デジタルサイネージのパネルには、社内外の情報を自動配信するインフォパネルと、ワーカーが自由に情報検索・閲覧できるアプリパネルの2つの画面を用意しています。アプリパネルは画面にタッチするだけで様々なウェブサービスへのアクセスが可能で、ワーカーに最適な情報を提供し、コミュニケーションの創出を促します」（岡村さん）。

三井デザインテックの取り組みはこれだけではない。IoT事業を手がけるベンチャー・ビーキャップと共同で、各種センサーとスマートフォンを活用したオフィスインベーションIoTツール「Beacapp Here Pro」を開発。オフィスでのワーカーの“行動可視化ツール”として、今春からサービス提供をスタートさせるという。

「当社が行ったオフィスへの投資に関する企業調査によると、生産性・効率性を向上させる手段として、また新たなビジネスを創造するためにワーカー同士のコミュニケーションを促す手段として、『オフィスの内装投資を増やしたい』意向を企業が持っていることが分かりました。一方で、オフィスの内装投資の効果は可視化が難しいため費用対効果を疑問視する声も根強く、投資に踏み切れないという課題があった。この課題を解決すべく、位置情報ソリューションを持つビーキャップと提携し、オフィスでのワーカーの行動を可視化するツール「Beacapp Here Pro」を開発したのです」（岡村さん）。

「Beacapp Here Pro」を活用することで、どんなことが分かるのだろうか。例えば部署間の遭遇量（部署同士の交流する頻度）調査からは、「各部署間の遭遇量を可視化することで、コミュニケーションが起きやすい環境の創出がで



三井デザインテックの分析ノウハウを投入し多角的にオフィス进行分析

- 働き方分析** 自分、あるいは特定の部署がオフィスのどこに滞在して業務をしているかを可視化し、自分の働き方や部署ごとの利用スペースの偏りを分析できます
- 在館率・在席率** 拠点ごとに、全体の何パーセントが拠点に滞在していたのか、また、自席に滞在している割合を、日別・時間帯別に可視化します。オフィス移転の際の席数の算出などに用いられます。例えば営業部署の場合は、活動量の目安としても用いることが可能です
- スペース稼働率** 会議室やオープンミーティングエリアなど、スペースの稼働率や利用人数を可視化します。センサーの活用により精度を高めることも可能です。適正なスペースの広さ、数などの解析に用います
- 遭遇量調査** 部署間の遭遇時間、遭遇割合を可視化し、部署間の交流の度合いを可視化します。レイアウト変更や部署の統廃合の際の参考データとして用いられます

きているか」を測定できるという（上参照）。スペース稼働率からは「効率的な空間活用ができていないか」の測定が見込める。こうした結果を基に、オフィススペースの運用見直し、利活用促進が期待できるわけだ。

「Beacapp Here Pro」の機能を支えているのが、人感センサーとビーコンだ。ビーコンとは、信号を約1秒に数回、半径30mの範囲内に発信する端末のことで、ビーコンを配置したエリア内で「Beacapp Here Pro」のアプリをインストールしたスマートフォンが信号を検知すると、独自のアルゴリズムで利用者の位置情報が判定される。その位置情報はワーカーが持つスマートフォンを経由してクラウドに送信され、ワーカーの人流・所在・滞在時間などの情報がサーバーに蓄積される仕

組みだ。「このサービスはセンサーを受信するためのレシーバーや配線工事が不要のため、安価かつ手軽に導入できます。蓄積された情報はウェブ上のダッシュボードにグラフ化され、日付・部署単位の詳細な分析も可能になります」（岡村さん）。この分析は、三井デザインテックがこれまで蓄積した独自のノウハウを応用したものだ。

「三井デザインテックは空間をデザインするだけでなく、データを可視化して分析し“働き方を科学する”ことで、独自のノウハウに基づいた知財・アイデアを基にクライアントの課題への解決策を提供します。そのために様々な企業と協力し互いの強みを生かしながら、新しいオフィス・働き方を提案して、イノベーション創出の一助になればと考えています」（岡村さん）。